

天照大神が語る「幸福実現党の心」(2016年7月11日)担当:石田昭 2017年4月22日

- 1 総裁先生の言葉: 2009年の立党は北朝鮮のミサイル実験へ無策の日本政府に一喝を与えるためだった。民主党政権の誕生、だがその後の動きはナビゲーター役「こちらの方向に進むべし」と教えるている面がある。与党は後から、政策をなぞるように実現している。
- 2 霊言: 政治思想流布運動としては成功。マスコミも含めて国民世論を改憲、国防の方にシフトさせた。オウム真理教事件の後遺症がマスコミにあり、宗教が権力を持つ恐怖心。
- 3 特に都市には左翼思想が強いが、そうした「国民への説得」と「マスコミへの折伏」は同じもの。マスコミ自体を折伏できなければ、国民は説得できない。国民を教育することが重要。マスコミに勝たなくてはダメ! 勝てば政治は動く。我慢の限界(大震災予兆霊言での大日靈貴神)
- 4 マスコミ、国民には、幸福の科学・実現党を黙殺している良心の咎めがある。それを突破できれば、かならず、フェアな報道をする。もう一段の起爆剤が必要。名古屋東での御講和「伝道の使命」、蓮根(真理に目覚めず、眠っている人)を起こすのも尊い仕事だ。カール・セーガンの言葉:「科学の歴史には、一度認められた理論や仮説が完全に否定され、事実をもっと適切に説明する新しい考え方に取って代わることがよくある。支持者が説を弁護しきれなかった場合、その説を捨てなさいと忠告してやるのはよいこと。自問して誤りを修正していくという方法は科学のすばらしい特質であり、この点で科学は、他の多くの領域と際立って異なるものとなっている。」つまり、科学の領域なら、黒白を明確にできるので、間違い報道のマスコミに勝つことが可能。これを起爆剤にするべき。西軍(定説)と東軍(爆発論)による「地震学の関が原」と宣言。
- 5 マスコミには緘口令が敷かれ「宗教政党を勝たせない」という判断がある。知名度ある候補必要、だが「知名度」と「報道」とは「鶏と卵」の関係。地道な伝道をすることも大事。
- 6 外国の意見(アメリカ・EUなど)をそのまま受け入れる状態から、堂々たる意見が言える国家になることが大事。例:プレート論、断層地震説、海洋底拡大説など全てアメリカ産思想。
- 7 宗教というメディアが古い形態になり、新しい形態の戦後メディアに抜かれた。どうやって追い抜くかが課題。「発明・発見・アイディア・創造性」を発揮すること。科学の土俵
- 8 ブランドは何を買っても満足される。比例区で票を取るにはそうしたブランド化が必要。
- 9 幸福の科学の活動に足りないものはグループとしての「シナジー効果」。セクショナルリズムに陥っている。凡庸な組織と同じで、セクシオンの業績のみに関心がいき、全体としての業績アップという視点がない。たとえば、海外部門の業績を政治にPRできていない。
- 10 S学会に比べると「インテリ宗教」になっていて、行動力が少ない。他人の見方を気にし過ぎる。「行動家」「活動家」を評価する懐の深い集団を作ること。貞観政要の世界
- 11 原因:「教団としての自己目標」の達成に関心があり、「教団の外に種を蒔く仕事」を評価しない傾向がある。畜舎での「乳搾り」を評価し、牛を放牧し、乳を多く出させる作業を評価しない。ハンティングの思想が足りない。成果は外側にあることが分っていない。「伝道者の情熱」を失って、数字の表ばかり見ていると、全体が見えず目前目標が気になる。
- 12 宗教の基本形は「軍隊型」「上位下達型」であるが、「伝道者(営業員)」が困っている問題を回収・手当てせず、「同じものを流し続ける」スタイルではだめ。例:アトランティス・ムーを信じない人、「太陽の法」を笑う人の原因を解決せずに放置。「伝道の使命」の真意、壁破壊せよ?
- 13 選挙で「協力票」を得るには「軍隊型」で上意を流すだけではだめ、組織が機能せず。
- 14 智慧が必要だが、智慧は活動の中で生まれる。新しいことはしたくない、これまでに得たステータス・自信を失うことを恐れる「秀才型」は、「失敗する前に退く」ことになる。
- 15 S学会のような利益誘導型が取れない、ではなく、政治におねだりする国民を啓蒙せよ。